

トヨタ、「コネクティッド・シティ」プロジェクト概要

【主なポイント】

- ・あらゆるモノやサービスがつながる街「コネクティッド・シティ」を東富士（静岡県裾野市）に設置。「Woven City」と命名し、2021年初頭より着工
- ・企業や研究者に幅広く参画いただき、CASE、AI、パーソナルモビリティ、ロボット等の検証を実施
- ・デンマークの著名な建築家であるビャルケ・インゲルス氏と協業し、街の設計を実施

本プロジェクトでは、2020年末に閉鎖予定のトヨタ自動車東日本株式会社 東富士工場（静岡県裾野市）の跡地を利用して、街づくりを進めるべく、2021年初頭に着工する予定です。様々なパートナー 企業や研究者と連携しながら、新たな街を作り上げていきます。

このプロジェクトは、人々が生活を送るリアルな環境のもと、自動運転、モビリティ・アズ・ア・サービス（MaaS）、パーソナルモビリティ、ロボット、スマートホーム技術、人工知能（AI）技術などを導入・検証できる街を新たに作るものです。プロジェクトの狙いは、人々の暮らしを支えるあらゆるモノ、サービスが情報でつながっていく時代を見据え、この街で技術やサービスの開発と検証のサイクルを素早く回すことで、新たな価値やビジネスモデルを生み出し、人中心の街づくりをすることです。

網の目のように道が織り込まれ合う街の姿から、この街を「Woven City」（ウーブン・シティ）と名付け、トヨタの従業員やプロジェクトの関係者をはじめ、多様な住民が暮らすことを想定しています。

<Woven City の主な構想>

- ・完全自動運転車の導入

- ・再生可能エネルギーの最大活用

- ・周辺連携サービス導入

街の中心や各ブロックには、人々の集いの場として様々な公園・広場を作り、周辺を含めた住民同士がつながり合うことでコミュニティが形成されることも目指しています。

WovenCity イメージビデオウェブサイト

URL：<https://www.youtube.com/embed/MJqsV2C0d6E>

以上